

図書館だより

開館時間（共通）9：00～17：30
 中央図書館 ☎ 0558-76-5566
 葦山図書館 ☎ 055-949-8605
 URL <http://www.izunokuni.library-town.com/>

ピックアップ

一般



悪玉伝
朝井まかで／著
KADOKAWA

大阪の炭問屋・木津屋の主の吉兵衛は、兄の訃報を受け実家の薪問屋・辰巳屋へ赴く。相続争いの噂は江戸まで届き、將軍までも巻き込む江戸時代最大の疑獄事件に発展。

【中央・葦山】

児童



ふたりぐらし
桜木柴乃／著
新潮社

夢を追い続ける元映写技師の夫と母親との確執を解消できずと決めた日から、少しずつ幸せに近づいていく。なぜ夫婦に？その答えがここに。

【中央・葦山】

10月の図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	10	⑪	12	⑬
14	⑮	16	17	18	19	20
21	⑳	23	24	25	㉔	㉕
28	㉑	30	31			

○中央休館日 □葦山休館日
 ◇両館休館日 ☆おはなし会

☆ 10月のおはなし会

中央図書館 13日(土) 11：00～
 葦山図書館 13日(土) 14：00～
 27日(土) 14：00～
 大仁くぬぎ会館こども広場
 11日(木) 11：00～

新着本コーナーから

- 一般 定年が楽しみになる！オヤジの地域デビュー 清水孝幸／著【中央】
- 一般 ほぼ命がけサメ図鑑 沼口麻子／著【中央】
- 一般 一億円のさようなら 白石一文／著【葦山】
- 一般 怪異十三 三津田信三ほか／著【中央】
- 児童 いいまちがいちゃん のぶみ／作【中央】
- 児童 気がつけば動物学者三代 今泉忠明／文【葦山】

お知らせ

保存期限の過ぎた雑誌を無料配布します

とき／10月27日(土)～11月4日(日)
 の開館日 9：00～17：30
 ところ／中央・葦山図書館
 ※袋などの入れ物をお持ちください。図書館によって雑誌の種類が異なります。なくなり次第終了します。

こどもの本の勉強会(全5回)

第3回 幼年童話って、どんな本？

とき／11月11日(日) 10時～11時30分
 ところ／中央図書館2階 視聴覚室
 対象／こどもの本や読み聞かせに興味のある人 30人(先着順)
 講師／山田由美子さん(静岡県子ども読書アドバイザー)
 内容／絵本からひとり読みにさしかかった子どもたちに届けたい本の紹介
 申し込み方法／10月9日(火)から中央図書館窓口または電話で申し込み
 ☎ 中央図書館 ☎ 0558-76-5566



文化財通信

その160

いずのくに石の文化史(その2)

文化財課
 ☎ 055-948-1428

石 灯籠とは、文字どおり石でできた灯籠のことで、社寺や庭園に設置されている屋外用の照明具です。神社の鳥居の脇や参道の両脇には、必ずといっていいほど石灯籠があり、その多くは、神社の氏子が奉納したものです。

葦山土手和田の熊野神社は、葦山城跡の権現曲輪にあるもので、明応9年(1500)に北条早雲が建立したという説や、永禄12年(1569)に北条氏規が建立したという説があることから、戦国時代からあると考えられる神社です。今号では、この神社の本殿の前にある石灯籠を紹介します。

熊野神社の石灯籠は、高さ約2.4mの一对のもので、向かって右側の竿の部分に「文久三癸亥年九月吉日」、左側の竿の部分に「江戸深川 宮浦松五郎」とそれぞれ刻まれています。刻まれている文字から、この石灯籠が、文久3年(1863)9月に江戸深川の宮浦松五郎という人物により奉納されたものであることがわかります。また、右側の基礎の部分には、土手和田村の氏子が世話人となっていることが刻まれており、地元の人々の協力を得



葦山土手和田熊野神社の石灯籠

て奉納されたこともわかります。宮浦松五郎は、江戸深川の鋳物師です。鋳物師は、金属を溶かして鍋や梵鐘などの金属製品を作る職人です。では、なぜ江戸の職人が伊豆の葦山の神社に石灯籠を奉納したのでしょうか。

近年、伊豆の国市が実施した葦山反射炉関係の古文書調査の結果から、宮浦松五郎が文久3年に葦山反射炉で行われた大砲の製造に関わった人物であることがわかりました。当時葦山反射炉では、文久3年1月か



「宮浦松五郎」の文字

ら幕府の命を受け、アメリカ製の野戦砲100挺の模倣生産を行っていました。宮浦松五郎が、なぜ葦山反射炉から離れた熊野神社に石灯籠を奉納したのかは記録がなく、詳しいことはわかりませんが、葦山反射炉での大砲生産が成功することを祈願してのことだったでしょう。

石灯籠に刻まれた文字を読むことにより、石灯籠ができた年代や、その造立に関わった人々の名前などを知ることができます。また、熊野神社の石灯籠のように、他の文化財などの記録と照らし合わせることで、よって、その関係が明らかになってくることもあるのです。